

クサムスビ

EXTRA
ISSUE



得度式受式

令和元年8月4日
於東本願寺

此度、長男が九歳になる年に合わせて、長女(小6)、長男(小3)、若坊守の三名が真宗本廟(京都・東本願寺)に於いて得度式を受式してまいりました。浄光寺に「釋尼受和」、「釋受響」、「釋尼流弥」の三名の僧侶が新に誕生しましたことをご報告申し上げます。

得度式とは、真宗大谷派の僧侶となる儀式で、親鸞聖人が九歳で出家得度された(一一八一年)ことにちなみ、満九歳から受式することができます。

当日は、三七度を超える暑さの名と共に白装束を身にまとい、御影堂にて剃刀の儀を受けました。阿弥陀堂へ参拝の後、親鸞聖人のお墓所である大谷祖廟おおたにそびょうに向かい、親鸞聖人のお骨が収められた御廟ごびょうの前で、僧侶として歩みを新たにすることを報告してまいりました。

僧侶として一步を踏み出したとはいえ、まだまだ右も左も分からないかたちだけの僧侶であります。これからの歩みの中で、皆



釋受響

さま方からのお育てをいただきながら、共に成長して行くことができたいと思います。僧侶という立場に安住せず、また俗にも埋没することなく、聖人の非僧非俗の精神を忘れることなく、自らの身をごまかすことなく向き合い、僧侶として生きるということ、また人間として生きるということはどういうことなのか訪ねてまいります。

僧侶であろうと在家であろうと共に迷いの身を抱えた同じ凡夫であります。共に聖人の御教えをいただき、共にお念仏の道を歩んでまいりましょう。今後とも末永い、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

オテラート × 武士の献立



講演する大友佐俊氏



小学生作製の九谷焼の皿



大友楼所蔵の器



福島武山

永らく絶えていた赤絵細描技法を独学で習得し、現代へ蘇らせた蘇らせた、国内外で活躍する九谷赤絵の第一人者。

第十回オテラート

八月二十四日から九月八日の日程でオテラート金澤2019が四地区、四宗派、十一の寺院を会場に開催されました。第十回の節目を記念して、大樋陶治齋先生をはじめ福島武山先生など十名の特別招待作家をお迎えしました。また約六十名の作家の作品の展示や様々なワークショップなどが催され、延べ四千人を超える来場がありました。

浄光寺では、映画『武士の献立』の主人公で包丁侍と呼ばれた舟木伝内ふなきでんないと浄光寺の繋がりをご縁に（詳しくは本紙第三号をご覧ください）、森山町小学校の三年生50名と沈金師の芝山佳範さんしばやまよしのりと一緒に九谷焼で作品を作りました。加賀野菜が描かれた絵柄が味わい深く、とても楽しい作品が並べられました。

映画の料理を監修した料亭大友楼の七代目当主、大友佐俊さんおともさとしによるトークイベントも開催され、加賀料理や武家料理について大変興味深いお話を伺うことができました。また映画のパネルやお膳など、貴重な品々も展示されました。



当寺に特別招待作家として参加してくださったのは、九谷焼赤絵の第一人者、福島武山先生。先生の作品の展示だけでなく、実演やトークイベントも開催され、大変貴重な機会に恵まれました。とても人間技とは思えないほど細かな筆遣いに驚かされるとともに、先生の人柄にも魅了され、先生の周りには常に人だかりができるほどでした。

また、浄光寺では4名の作家が参加し、今年のテーマ「春夏秋冬」を題材に作品を制作しました。昨年オテラート大賞を受賞された下橋晶さん（仏画アーティスト）は光で変化する立体パネル、志浦と大川さん（会社員）は花器、オテラートイメージキャラクターの作者でもある島村海南江さん（金沢美大）は皿、芝山佳範さん（沈金師）は日々変化する沈金パネルを各々展示しました。

その他、アリーカフェさんによるコーヒー飲み比べ講座、伊田ファミリーによるクラシックの演奏会、3Dプリント獅子頭色付け体験などのイベントが開催され、境内では駄菓子屋や縁日も催されました。

小学生×立川流×浄光寺×笑福亭

第七回 おどろおどろ

五月 十日(金)
十二日(日)

法話 浄光寺住職
落語 立川志らら
笑福亭瓶二

五 月四日～十二日まで十八カ寺を会場に、おなじみの立川志ららさんと笑福亭瓶二さんと、さらに今回初めて立川らく次さんをお迎えして「第七回おどろおどろ」が開催されました。

浄 光寺では十日、森山町小学校がおてらぐごに参加しました。小学生を招待するのは六回目となりますが、例年通り「正信偈」の唱和と法話、落語、質問タイムの順に進行していきましました。正信偈では戸惑いつつも、大きな声でお勤めしてくれました。また聞き上手な皆さんは真剣な表情で住職の法話にも耳を傾けていました。落語は毎年子供たちに大人気の立川志ららさん。「初天神」と「狸の札」の二席を披露してくださり、笑い声が



本堂に響き渡りました。今回はじめて三年生が来てくれましたが、生き生きとした表情で楽しんでくれたことが印象的でした。

十 二日の一般の部では、老若男女、約一〇〇名が足を運んでくださいました。落語は浄光寺初登場の笑福亭瓶二さんが担当。江戸の立川流に対して上方の笑福亭。師匠はあの鶴瓶さんです。関西弁の人情味溢れる語り口で江戸落語とは雰囲気異なる新しい風を吹き込んでくださいました。当日は、小学生同様「正信偈」、法話、落語の流れ。落語だけでなく法話を楽しみに来たという有難い声も聞かれました。



落語の演目は「動物園」と「手水廻し」で、瓶二さんの落ち着きがありつつ、ノリが良い話術とコミカルな動きが皆さんの笑いを誘っていました。今年のおてらぐごもお陰様で多くの方に笑いを通して仏法に親しんでくださったようで、今後もこのありがたいご縁を大切にしていきたいと思えます。次回も志ららさんと瓶二さんをお迎えます。

第八回「おてらぐご」令和二年五月十日(日) 午前十時半・笑福亭瓶二 お楽しみに。

令和2年回忌表

- 一周忌：平成31年・令和元年(2019年)
 - 三回忌：…平成30年(2018年)
 - 七回忌：…平成26年(2014年)
 - 十三回忌：…平成20年(2008年)
 - 十七回忌：…平成16年(2004年)
 - 二十三回忌：…平成10年(1998年)
 - 二十五回忌：…平成8年(1996年)
 - 二十七回忌：…平成6年(1994年)
 - 三十三回忌：…昭和63年(1988年)
 - 三十七回忌：…昭和59年(1984年)
 - 五十回忌：…昭和46年(1971年)
- ※〈内の年忌法要を勤める場合もあります。法要のご依頼はお早めに。〉

ききまいけ

毎月二十八日・午後二時
十二月～二月は冬休み

みんなで『正信偈』のお勤めの練習とお勉強をしています。途中参加、初心者の方も大歓迎です。



アメリカ人ツアー

一昨年よりアメリカ人の旅行者の受け入れを少しずつはじめてまいりました。昨年は半年間で延べ五〇〇名を超えるアメリカ人がはるばる浄光寺に足を運んでくださいました。当然文化や宗教など全く異なりますが、日本人の生活や文化、そして宗教に大変興味をお持ちで、約一時間半ほどの滞在の中で、仏教やお寺のことなどを熱心に学んでいかれています。



年中行事

「除夜の鐘」・「修正会」

大晦日・元旦



響流する鐘の音と共に平成最後となる年を迎えました。零時より本堂では新年初めてのお勤め「修正会」が勤まり、ポーツと生きる私たちの在り方を親鸞聖人のみ教えに訪ねました。また篝火^{かがりび}が焚かれた境内では温かい食べ物や飲み物も提供され身も心も温まりました。

「お太子さん」

三月二十一日

鈴木大拙館館長 木村宣彰

長き渡りご縁をいただいている鈴木大拙館館長の木村宣彰先生を今回もお迎えして、聖徳太子御忌「お太子さん」が厳修されました。親鸞聖人が数多く残された「聖徳太子和讃」をてがかりに「毒蛇悪龍」とまでいわれた私たちの在り方を聖徳太子が大切にされた仏の教えに訪ねました。一昨年のご法話を当寺法話録『結草』第二十八号にまとめてございます。熟読玩味いただけると幸いです。



「追弔会」

八月十三日

玄性寺住職 霊河秀樹



八月十三日、お盆に合わせて「追弔会」が執り行われました。家族揃ってお見えの方も多くあり、幅広い年代の方がお参りくださいました。ご法話には、法話ライブでおなじみの霊河秀樹師（玄性寺住職）を福井県よりお迎えしました。仏教讃歌やJpopなど親しみのある曲を交えながら、仏法を優しい歌声とギターの色に乗せて私たちに届けてくださいました。今回も仏の涙が溢れる心温まる貴重なご縁をいただくことができました。

「報恩講」

十月十七日・十八日

道因寺住職 相馬 豊

十月十七日、十八日の両日、おかげさまで、当寺「報恩講」を執り行うことができました。報恩講をお迎えるにあたり、十月十四日、皆様方には本堂の仏具のおみがきにご協力いただきました。今回も多くの方にお力添えいただき、ピカピカな仏具でおんこさんをお迎えすることができました。

報恩講「速夜」並びに「日中」のご法話は、昨年に引き続き相馬豊師（白山市・道因寺住職）よりご法話をいただきました。人として生まれてきたこと、死すべき者として生まれ



てきたことの重大さについて丁寧にお話しくださいました。ポーツと生きている私たちのその生き方が問われる思いで聞かせていただきました。両日ご法話の後にはお斎の接待があり、お世話くださった手づくりのお斎を皆さんと一緒にありがたく頂戴いたしました。

「初夜」のお勤めの後は毎年恒例のビデオ上映。今回は『歎異抄』親鸞さまと唯円』を上映し、親鸞聖人のお弟子の唯円が書き記した『歎異抄』を通して親鸞聖人の生き生きとしたお言葉に耳を傾けました。

また親鸞聖人の祥月命日にあたる十一月二十八日には、当寺開法会「きこまいけ」でも報恩講をお

勤めさせていただきました。この日の為に正信偈の練習を重ねてこられた皆さんが中心となってみんなが正信偈を唱和。緊張しつつも一生懸命声を出してくだり、それぞれの役割を果たしてくださいました。住職の法話の後には、恒例のぜんざいをいただいで今年度の「きこまいけ」を締めくくりました。

尚、次年度は令和二年三月二十八日（土）より八年目の「きこまいけ」を再開します。「きこまいけ」では正信偈のお勤めの練習やその教えを学んでいます。途中参加も大歓迎です。皆様のお越しを心よりお待ちしております。



一年中行事

- 一月「修正会」元旦（午前0時）
- 三月「お太子さん」彼岸中日（午後一時）
- 七月「孟蘭盆」十三日～十六日
- 八月「追甲舎」十三日（午前十時）
- 十月「報恩講」十七日（午後一時半・七時）
十八日（午前十時半）
- 十二月「除夜の鐘」大晦日（午後十一時半）
- ※毎月二十八日「きこまいけ」（午後二時）

行事のご案内

「お太子さん」

日 三月二十日（祝）

時 午後一時

法話 木村宣彰師（鈴木大拙館館長）

「おてらめぐり」

日 五月十日（日）

時 午前十時半

落語 笑福亭瓶二

■三月二十八日より「きこまいけ」を再開いたします。